



第61回男子・第55回女子プロボウラー資格取得テスト

＜東日本会場＞4月11・12日＝品川プリンスホテルBC、13・14日＝サンスクエアボウル
 ＜西日本会場＞4月11～14日＝ボウルアロー松原店



男子26名、女子14名が第1次実技テストを突破

▲1次テスト最終日の会場風景。今年も無観客での開催となったが、コロナ禍の規制緩和が進むなか、受験者のマスク着用は任意とされた(4月14日、サンスクエアボウル)

JPBA第61回男子・第55回女子プロボウラー資格取得テストの第1次実技テストが4月11～14の4日間、東西の3会場で開催された。受験者は男子41名(東20・西21)、女子19名(東10・西9)の計60名。新型コロナウイルス感染防止のための規制が一部緩和されたものの、今年も無観客(親族・コーチを含むすべての観戦が不可)での開催となった一方、受験者のマスク着用は任意とされた。4日間で規定のゲーム数(男子60G・女子48G)を完投し、合格基準点

(男子1万2000点＝200Avg/女子9120点＝190Avg)をクリアしたのは東西とも男子13名、女子7名で、別表の計40名が第2次実技テスト進出を果たした。最高得点者は、東日本の男子がKUWATA CUP優勝(一般男子部門)も記憶に新しい齋藤祐太さん、同女子は高3だった昨秋の時点で相模原パークレーンズと専属契約を結んだことが話題となった金子萌夏さん。西日本では、男子が西の受験生で唯一左投げだった内藤慎之介さん、同女子は元全日本ナショナルチームメンバーのベテラン・中野麻希さんがトップ通過した。東西を通じての最年少通過者は男子16歳、女子17歳、同最年長は男子39歳、女子38歳。また、年々増加傾向にある両手投げのボウラーは、今年も計15名(男子13名、女子2名)が受験。うち男子

は7名が、女子は2名ともに1次を突破している。第2次実技テストの受験者は男子9名、女子5名の1次免除者を加えた計54名(女子の近藤菜帆さんは1次、2次ともに免除)。すでに2日目までを終了(4月25・26日＝大阪・牧野松園ボウル)し、残る2日間は5月15・16日に都内港区の東京ポートボウルで行われる。今年度プロテストの最終結果は次号にて詳細します。

プロボウラー資格取得テスト第1次合格者

＜東日本・男子＞					
順位	氏名	登録地	利腕	スコア	アベレージ
1	齋藤 祐太	神奈川県	右	13,305	221.75
2	村上 裕一	東京都	右両	13,118	218.63
3	石田 智輝	青森県	右	13,112	218.53
4	梅木 孝宏	東京都	右	13,050	217.50
5	熊木 大地	埼玉県	右	12,916	215.26
6	山崎雄太郎	埼玉県	右	12,827	213.78
7	原子 大将	秋田県	左	12,813	213.55
8	森岡 昌高	東京都	右両	12,808	213.46
9	葛原 康介	青森県	右	12,743	212.38
10	瀧名 晃司	東京都	右両	12,700	211.66
11	内藤 広人	静岡県	右	12,649	210.81
12	榎本 裕之	東京都	右両	12,518	208.63
13	米澤 佑哉	東京都	右	12,310	205.16

＜東日本・女子＞					
順位	氏名	登録地	利腕	スコア	アベレージ
1	金子 萌夏	栃木県	右	10,125	210.93
2	徳田 有紀	静岡県	右	9,543	198.81
3	小堀香那子	千葉県	右両	9,330	194.37
4	石田 玲奈	群馬県	右	9,328	194.33
5	奈良輪美佳	千葉県	右	9,327	194.31
6	熊本 美和	東京都	右	9,220	192.08
7	酒井みれい	神奈川県	右	9,173	191.10

＜西日本・男子＞					
順位	氏名	登録地	利腕	スコア	アベレージ
1	内藤慎之介	京都府	左	13,511	225.18
2	横内 結樹	大阪府	右両	13,351	222.51
3	木村 謙太	愛知県	右	13,325	222.08
4	中野 真明	大阪府	右	13,138	218.96
5	前田 祐輔	大分県	右	12,941	215.68
6	山崎 昭太	富山県	右	12,701	211.68
7	田野岡大夢	大阪府	右	12,436	207.26
8	山本 和紀	愛知県	右	12,398	206.63
9	加藤 慧	岐阜県	右両	12,202	203.36
10	山本 義達	大阪府	右両	12,160	202.66
11	春木 悠里	愛知県	右	12,155	202.58
12	藤井 大河	大阪府	右	12,089	201.48
13	徳谷 嘉朗	大阪府	右	12,070	201.16

＜西日本・女子＞					
順位	氏名	登録地	利腕	スコア	アベレージ
1	中野 麻希	大阪府	右	9,915	206.56
2	緒方 彩音	大阪府	右	9,764	203.41
3	河村 怜奈	京都府	右	9,732	202.75
4	新舎菜々美	岡山県	右	9,685	201.77
5	緒方 美空	大阪府	右	9,417	196.18
6	溝口 睦実	愛知県	右	9,416	196.16
7	森 恵美	奈良県	右両	9,391	195.64



▲東日本会場1位の齋藤祐太さん「2次もトップで合格できるように、しっかり準備したい」



▲東日本会場の女子は10代がワンツーフィニッシュ。トップを独走の17歳・金子萌夏さん(左)は「2次テストはもっと難しくなると思うので、しっかり練習して臨みたい」、最年少16歳の徳田有紀さんは「2次も最後まで諦めずに、合格目指して頑張ります」



シンガポールの女子ナショナルチームが世界最強の理由

Vol.2 report

山下 知且

先月号ではマレーシアの話題をお伝えしました。今回はそのお隣の国、シンガポールのお話をしたいと思います。

シンガポールでまず頭に浮かぶのは、世界最強と名高い女子ナショナルチームでしょう。PWBAで3勝のシェリー・タン(Cherie Tan)、2勝のシェイナ・ウン(Shayna Ng)、

クイーンズを勝ったバーニス・リム(Bernice Lim)など、アメリカプロツアーにスポット参戦してこれだけの成績を収める彼女たちの実力は、まさに世界一と言って過言ではないと思います。

なぜ小さな島国シンガポールが、世界有数のボウリングアスリートを次々と輩出するよう

になったのか？ そこにはある女性リーダーの長年にわたる努力がありました。

ジェシー・プア氏(Mrs. Jessie Phua PBM)は、2002年にシンガポールボウリング連盟の会長に就任。2007年から2011年までFIQ(国際柱技者連盟)会長。これはシンガポール人として初のIF(スポーツ国際統括組織)会長でした。また2007年1月から2009年7月までは国会議員。現在はシンガポールオリンピック委員会の副会長を務めています。

着任して彼女が最初に取り組んだのは「コーチに給料を出すこと」だったそうです。それまでシンガポールでは「コーチングはボランティア」という意識が根付いていたそうです。しかしコーチにはそれぞれの生活があり、家族がいて子供もい

るのだからと、当時副首相だったリー・シェンロン(Mr. Lee Hsien Loong)現首相に掛け合い、国からの補助も得てボウリングコーチを、認められたひとつの「職業」にしました。

シンガポールスポーツスクールという国立体育学校の中にはボウリングコースがあり、生徒は12レーン(4レーンずつ材質が異なる)のボウリング場で毎日練習しています。またシンガポールにはたくさんのボウリングアカデミーがあり、それぞれがビジネスとして成り立っています。それらのほとんどすべてが、彼女のさまざまな取り組みによる成果だと思えます。世界のボウリング界を代表するリーダーと言えるでしょう。

2021年6月に引退し、会長



▲4月に来日したジェシーとジミーのプア夫妻を大阪・神田川本店でおもてなし

職をヴァレリー・テオ氏(Dr. Valerie Tao)に譲りました。ヴァレリーは38歳の女性医師です。私と同世代で、ナショナルチームのエースボウラーだった彼女の手腕に期待しています。



やました・ともかつ
1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年～2011年ナショナルチーム在籍。長崎県スポーツ協会職員。JBC国際委員会委員、長崎県連常任理事。2022年からIBFアスリート委員



▲昨年の6月にシンガポールボウリング連盟会長がジェシー・プア氏(左)からヴァレリー・テオ氏にバトンタッチされた